

我が校の学ぶ力向上策

大津市立栗津中学校

教育目標

心豊かでたくましい生徒の育成

目指す生徒像

学びとる【知】

○確かな学力と学ぶ意欲を持った生徒

思いやる【徳】

○豊かな心を持ち、「命」や「もの」を大切にする生徒
○社会のために自ら実践する生徒

やり抜く【体】

○健康でたくましさを持った生徒
○「やればできる」を合い言葉に切磋琢磨する生徒

確かな学力と学ぶ意欲を持った生徒

1 教科指導における改善策

国語における改善策

- ◇生徒の身近な話題提供、漢字の面白さを伝える等、語彙力を高め、漢字の定着を図る。
- ◇文章を書く作業を授業に多く取り入れ、書くことへの抵抗を和らげる。

数学における改善策

- ◇授業の中で「できた」・「わかった」と思える問題・場面を設定し、学習意欲を高める。
- ◇授業の中で、自分の言葉を使って説明したり表現したりする場面を意図的に設定する。

理科における改善策

- ◇観察や実験の考察とともに、基礎的な知識に関する定着をバランスよく図る。
- ◇観察や実験の結果をもとに考察したり、説明や発表をしたりする学習場面を設定する。

2 主体的な学びに向けた取組

「学び合い」学習の推進

- 話し合い、教え合う時間を確保
- 互いに認め合い、自尊感情の高まる学級づくり

全校一斉朝読書の推進

- 想像力を豊かにし、心落ち着かせて1日の学習に臨む姿勢の育成

基礎学力の定着

- 長期休業中の学習支援や質問教室
- 計画的な課題（宿題）提供

家庭との連携

- 家庭での学習時間、テレビやスマホなどの利用について情報発信

授業のユニバーサルデザインの推進

- 授業始めに「本時のめあて・ねらい」を明示

教員の授業力の向上

- 教員のミドルリーダーを核として、すべての教員の授業力を向上

学力向上へのアプローチ

3 校内研究の充実

【研究テーマ】魅力ある教育実践への挑戦
- 「対話」と「協同の学び」を軸とした学校づくり -

- 「学び合い」学習を柱に授業改善を進めます。
- 授業研究会や研修会、研究視察等を通して、教員の授業力の向上を図ります。

学ぶことは楽しいよ！



栗津中創立60周年記念キャラクター あわ松くん

学力・学習状況に係る状況

※全国学力・学習状況調査から読み取れる結果は、学力の特定の一部分であることをご理解願います。

| | 長所 | 短所 |
|----|--|-----------------------------------|
| 国語 | ○「書くこと」と「読むこと」の正答率が高い。 | ●「漢字の書き取り」や「話すこと・聞くこと」の正答率が低い。 |
| 数学 | ○与えられた資料や情報を読み取り、それを活用して、事象の傾向をとらえることができる。 | ●関数関係を捉え、数学的に解釈し、問題解決を行うことに課題がある。 |
| 理科 | ○コンピュータを用いた資料などを活用し、考察して要因を考えることができる。 | ●主として「知識」に関する問題の正答率が低い。 |

I 本校の学力・学習状況に係る状況 [H30「全国学力・学習状況調査」の結果より]

○印＝長所、●印＝短所

【学力調査】○国語・数学・理科すべての平均正答率は全国平均を上回っている。

《国語》○「書くこと」と「読むこと」の正答率が高い。

●「漢字の書き取り」や「話すこと・聞くこと」の正答率が低い。

《数学》○与えられた資料や情報を読み取り、それを活用して、事象の傾向をとらえることができる。

●関数関係を捉え、数学的に解釈し、問題解決を行うことに課題がある。

《理科》○コンピュータを用いた資料などを活用し、考察して要因を考えることができる。

●主として「知識」に関する問題の正答率が低い。

【学習状況調査】

《国語》（※国語の学習に関する質問は、今年度設定されていません。）

《数学》○数学の勉強は大切だ、数学ができるようになりたい、と考える生徒の割合が高い。

●授業で学習したことを普段の生活の中で活用することができないか考える生徒の割合が低い。

《理科》○授業で観察や実験を行ったと回答する生徒の割合は高い。また実験前に予想を立てることができている。

●観察や実験の結果をもとに考察したり、まわりの人に説明や発表をしたりすることが十分にできていない。

II 学力向上へのアプローチ

1. 教科指導 《国語》・《数学》・《理科》における改善策

《国語》◇生徒の身近な話題提供、漢字の面白さを伝える等、語彙力を高め、漢字の定着を図る。

◇文章を書く作業を授業に多く取り入れ、書くことへの抵抗を和らげる。

《数学》◇授業の中で「できた」・「わかった」と思える問題・場面を設定し、学習意欲を高める。

◇授業の中で、自分の言葉を使って説明したり表現したりする場面を意図的に設定する。

《理科》◇観察や実験の考察とともに、基礎的な知識に関する定着をバランスよく図る。

◇観察や実験の結果をもとに考察したり、説明や発表をしたりする学習場面を設定する。

2. 主体的な学びを支える学習に向けた取組

(1) 「学び合い」学習の推進

○授業で2つの課題(基礎・ジャンプ)を設定し、話し合い、教え合う時間を確保する。

○どの生徒も学習に参加でき、互いの発言を認め合い、自尊感情の高まる学級づくりを推進する。

(2) 「全校一斉朝読書」の推進

○想像力を豊かにして自らの考えを持ち、心落ち着かせて1日の学習に臨む姿勢や学習習慣を育成する。

(3) 基礎学力の定着

○長期休業中の学習支援や定期テスト前補充・質問教室を開講し、きめ細かな学習支援を行う。

○計画的な課題(宿題)提供に努め、家庭での学習習慣を身につけさせる。

(4) 家庭との連携

○家庭での学習環境づくり〔学習時間、テレビやスマホの利用〕などについて情報発信に努める。

(5) 授業のユニバーサルデザインの推進

○毎授業に目標を持ち意欲的に取り組めるよう、授業始めには「本時のめあて・ねらい」を明示する。

(6) 教員の授業力の向上

○教員のミドルリーダーを核として、すべての教員の授業力の向上を図る。

3. 校内研究の充実

【研究テーマ】魅力ある教育実践への挑戦 ―「対話」と「協同の学び」を軸とした学校づくり―

○「学び合い」学習を柱に授業改善を進め、生徒の学びの質的向上を図る。

○授業研究会や夏季研修会、公開授業、先進校研究視察等々を通して、教員の授業力の向上を図る。

III 学ぶ力向上策の検証

- ◆「全国学力・学習状況調査」の結果分析と併せて、生徒・保護者による学校評価アンケート(「学校 振り返りシート」)、教師による自己評価、各教科における評価等々を分析し、学ぶ力向上策の実践状況や妥当性を検証し、適宜見直していく。